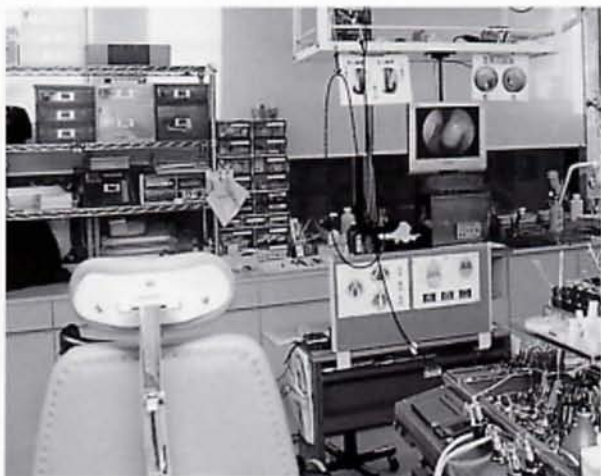


ことはできるのですか。

**笠井** 本当はそういう方が一番適応になるでしょう。大人用の薬もなかなか使えませんし、点鼻薬も規則正しく使えません。それでいて、鼻の粘膜がパンパンに腫れていて、鼻で呼吸できないという子供がたくさんいますから。

しかし、実際には局所麻酔をして、1人で治療椅子

に座って、鼻の処置をしている間じっと我慢してられません。ですから、普通は中学生ぐらいからですね。



治療椅子の前方にはモニターが用意され、治療の様子を確認できるようになっている

## 耳鼻科医の特性を生かせる治療法として

—治療の際の説明はどのようにしているのですか。

**笠井** 鼻のレーザー治療はほとんど処置という感覚の手軽にできるものですが、事前にパンフレットをしっかりと読んでおいてもらって、それで疑問が残る方には後で聞いてもらうようにしています。少しでも疑問がある方、完全に治ると勘違いされているような方には、よくお話しして理解を得ることが大切です。

—セカンドオピニオンなども行っているのですか。

**笠井** それは確実に必要だと思います。このレーザー治療が万全だと誤解をされている方が意外に多いのです。そのことが、インターネットでレーザー治療についての情報公開をするようになったきっかけにもなりました。レーザーの機械というのは高度先進医療機械

だから保険が利かない、レーザーを使えばピタリと治るなどの広告を出して、高い料金を取っているところがいっぱいあります。医療の正しい情報が全然伝わっていないのです。

インターネットでも「保険が利くところもあれば、利かないところもあるのは、どうしてか」「料金がこんなに違うのは、なぜ」と、このような質問がすごく多いのです。ホームページを見た方でも、いまだにレーザー治療で治ると思いついで来る人がいます。そういうことは書いてないのですが、自分に都合のいいところだけを拾い出して読んで来るのです。

ですから、1人の医者意見だけでは駄目だと考え、レーザー治療をしたいという方には、近くの耳鼻科に通っているのであれば、その医者にもう一度、レーザー治療を受ければある程度症状がよくなるような状態なのかどうかを尋ねてもらおうようにしています。

—アレルギー性鼻炎の治療法において、今後はレーザー治療が主流になっていくのでしょうか。

**笠井** 主流にはならないと思います。治療の選択肢の一つであって、

補助的なものだと思っています。主流はあくまでも薬です。新しい薬がどんどん開発されてきているので、昔みたいに眠くて困るということとはなくなっていますし、副作用においても割と穏やかな薬ばかりになってきました。

ただ、薬を出すだけなら小児科の医師でも、内科の医師でもだれでも出せます。それこそ婦人科の医師でも可能で、いまはアレルギーの治療をどこでも行っているなか、耳鼻科医としての特性を生かせる唯一のもの、外来でできる手術的な治療としては、今のところこのレーザー治療しかないと考えています。(TKC出版/柿崎法夫) 図

## プロフィール

**笠井 創** (かさい はじめ)

昭和25年12月生まれ。千葉大学医学部・同大学院卒業、医学博士号授与  
千葉大学医学部耳鼻咽喉科教室、国保君津中央病院耳鼻咽喉科医長、国立がんセンター病院頭頸部外科医員、国家公務員等共済組合連合会横須賀共済病院耳鼻咽喉科医長、千葉大学医学部非常勤講師兼任、日本耳鼻咽喉科学会認定専門医、笠井耳鼻咽喉科クリニック院長、東京都耳鼻咽喉科医会常任理事

## 診療内容

●外耳炎 ●中耳炎 ●アレルギー性鼻炎  
●慢性副鼻腔炎 ●扁桃炎 ●いびき、睡眠時無呼吸 ●咽喉頭異常感症 ●頭頸部腫瘍等

〒152-0035

東京都目黒区自由が丘1-29-14 J-フロントビル3F